

無災害継続へ激励

安全パトロール

橋本厚労副大臣

建設省 浦和美園現場
橋本厚労副大臣は17日、さいたま市緑区でシーアールイーが建設を進めているロジスクエア浦和美園新築工事（設計施工：錢高組）の現場で安全パトロールを実施した。第12次労働災害防止計画の目標達成に向けた労働災害防止のための取り組みの一環となる。厚生労働省から橋本副大臣を始め、田中誠二労働基準局安全衛生部長、田畑一雄埼玉労働局長らが巡視し、錢高組の山崎正健作業所長、



視察する橋本副大臣（右）

施設規模はRC・S造4階建て延べ5万2313平方メートル。現在は1、2階で内装工事、3、4階で躯体工事を進めている。完成は2017年4月の予定。建設地は同区大門2500。

作業所は重点実施項目として、新規入場時教育の強化、声掛け運動、優良労働者の表彰、ゴミの1つかみ運動の実施、パトロールの強化のほか、錢高組独自の安全管理や環境対策・近隣への配慮に取り組んでいる。

場内巡視後、橋本副大臣は作業員らに「労働安全を守ることに心を砕いていただき感銘を受けた」と述べた上で「引き続き無災害を続け、安全第一で日本の発展にこれからも力を尽くしていただきたい」と激励した。

安全管理を高く評価

橋本厚労副大臣が安全パト

建設省 浦和美園現場
橋本厚労副大臣は17日、錢高組が施工

を進めているロジスクエア浦和美園新築工事の



パトロールを行う橋本副大臣

現場を訪れ、安全パトロールを行った。同パトロールは、厚生労働省の第12次労働災害防止計画（13年～17年まで）の目標達成に向けた取り組みの一環として行われたもの。

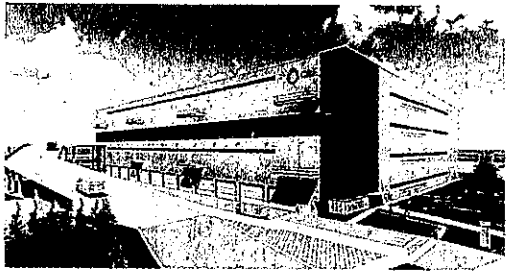
橋本厚労副大臣は、工事の概況説明を受けた後、仕上工事や躯体工事などが行われている現場で安全パトロールを

実施。終了後の講評では、「現場を実際に見てみて、安全管理がしっかり行われていると感じた。建設現場では、高所作業の安全管理、作業員同士のコミュニケーション」

「作業員一人ひとりの安全意識」の3点を徹底することが重要だと考える。これらを意識し、今後の作業も労働災害ゼロを目指し取り組んでほしい」と激励した。

パトロールの現場となった「ロジスクエア浦和美園新築工事」（埼玉県さいたま市緑区大門2500）の概要として、発注者はシーアールイー、設計・監理を錢高組一級建築士事務所、施工を錢高組が担当。規模・構造は、柱RC梁S造4階建て延べ5万2313・92平方メートル、建物用途は、倉庫業を含む倉庫。工期は2月15日～17年4月15日まで。

CRE



2017年4月に完成するロジスクエア浦和美園

女性がより活躍、動きやすい職場空間に……。物流施設に特化した不動産のワンストップソリューションを提供するシーナールイー（CRE）は、さいたま市で開発中の「ロジスクエア浦和美園」のメインコンセプト「就業環境の改善」を掲げ、従来の倉庫のイメージを覆し、職場空間が好きになることで離職率を減らし、より長く働きた

建設 2016

物流施設

好きになる職場づくり

000万平方メートルの管理面積を目指す、開発事業を伸ばしている。「テナント企業から『パートやアルバイトを含む従業員の確保が難しくなってきた』と聞く中で、物流施設をいかに魅力的な空間にするか、働き手が高揚するような施設を意識している」（柴田善弘開発事業本部CM企画部長）という。例えば、「従来、とすれば殺風景だった物流施設の内部をポップなサ

インデザインなどで魅力的にし、フロアごとに色味を工夫したり、照明デザイナーを起用するなど働きやすい照明の選定まで踏み込んでいる」（柴田部長）。現在、さいたま市で開発を進



柴田部長

めているマルチテナント型の物流施設「ロジスクエア浦和美園」（4階建て延べ5万2313平方メートル）は、「外観・エントランスなどのデザイン性向上や休憩スペースの設置だけでなく、実際に業務に従事することになる倉庫の中の就業環境改善をメインコンセプトに掲げた」（柴田部長）。防火区画の間仕切りは、明正工業が販売、同グループ企業のスタイロ加工が製造する耐

火断熱間仕切り「タイカタンパネル」シリーズを全面採用した。設計、施工も銭高組。2017年4月の竣工を目指している。「タイカタンパネル」シリーズは、従前のALC（軽集気泡コンクリート）やボード貼りに代わる間仕切りパネルで、表面に鋼板を施し、耐火性や断熱性に加え、耐震性も備えている。70万平方メートルを超える実績がある。

いと思えるような就業環境を提供する（CRE）。倉庫内のすべての防火区画壁に、高級感があり意匠性も高い明正工業グループ（東京都新宿区、永上修一社長）の耐火断熱間仕切り「タイカタン」を全面採用し、物流施設の空間の魅力を高め、差別化を図っている。

火断熱間仕切り「タイカタンパネル」シリーズを全面採用した。設計、施工も銭高組。2017年4月の竣工を目指している。

るが、防火区画の耐火間仕切り「タイカタン」シリーズが全面採用されるのは初めて」（明正工業）。

防火区画壁に明正工業「タイカダン」



17日には橋本厚生労働副大臣が現場を視察した

また、「冷蔵冷凍倉庫の間仕切り壁として使用することもでき、タイカタンパネルを新築当初から設置することで、入居テナントが冷蔵冷凍設備を導入する際のインシャルコストも減る。外壁のサンドイッチパネルとともに、冷暖房の熱負荷低減にもつながる」（柴田部長）。今回の浦和美園は、全体で約1万2000平方メートルの耐火断熱間仕切りのうち、4分の1にスパークライカタンを採用している。「これまで、部分採用はあ

るが、防火区画の耐火間仕切り「タイカタン」シリーズが全面採用されるのは初めて」（明正工業）。取り付け工事には、施工精度と安全性を高め、工程を短縮し、コストを削減する作業支援ロボット「i-ROBOT」で施工を省力化、「現在、2-3階の間仕切り壁を施工中で、全体の3分の1の施工を終えている」（明正工業）。

17日には橋本厚生労働副大臣が現場を視察した。明正工業の永上社長は、「物流施設や食品工場のほか、一般的な工場の階高の高い耐火間仕切りやALCにかわる耐震性を求めるお客さまからの採用が増えてきている」「職場環境が快適になり、施設の付加価値も高まる」と話している。